

だいきやうのこと

つくゑをたて、きやうをばすふるなり、略中もや三方にみすをかけて、おろしたるうへに、せん
ぎやうとて、まんのやうにて、きぬにたかきまつをほんたいにて、まきのきどもをかきたり、の、
一□□あるがひろき入りの、むらさきいるなるさしまはしたるを、みすのうへにひくなり、これ
らまきのゑをかきたれば、春をひんがしにはじめてひくべし、もやのみすのまかうのまものき
はにおしあて、ひくべし、もとひもをまんのやうにつけて、つなをぐしたれども、つなしてはひ
くべからず、つなのをはみすとせんぎやうとのなかにをしかへして、へりのなかにこはしのい
たをいれて、もかうのまものきはにをしあて、はしらにとちつけたるがまきなり、たけみじか
くて、まものすかむなかへりみすふたつかいきあるをば、はなつきに人のするなり、そのぎわろ
し、ひとへりをひきかさねてひくべし、たゞしまはひろくて、せんぎやうはせばくば、ちがへるこ
とかなはじ、はなつきにもすべし、

〔大饗雜事〕軟障事

面ハ生絹ニ唐繪ヲカク、縦様ハ三尺七寸、鐵定横ハ六幅ナリ、上下左右ニ綾ヲ紫ニ染テ縁ニ付
ク、其廣ハ六寸八分、金定白練ノ絹ヲ裏ニ付ク、縁ノ裏ハ紫ノ練絹也、紫ノ綾同縁トヲ一寸バカリニ
タ、ミテ乳ニ付ク、其數十也、綱ヲトホスベキ料ナリ、紫ノ練ノ平絹ノヒロサ一寸餘ナルニ、布ヲ
縫タ、ミタル綱ニテ張也、綱ノ長ハ一丈二尺、金定上官ノ座ニ依テ、此軟障ヲ五帖或四帖、副御簾
テ引之也、今注付タルハ一帖分也、

〔仙源沙〕勢せんざう セジヤウ共、軟障也、障子代ニ用之、唐綾ニテ張、結纈ニテメグリヲス、又云、殿
上ノ引物也、白絹ニ松ヲ繪ニ書、高松ト號也、須磨巳日祓ノ所、藤ウラバ玉カヅラ泊瀬詣所ニ有、姿
ハ幔ニニタリ、赤モ青モアリ、